「県立高等学校の規模及び配置の考え方」（概要）　(平成11年8月　広島県教育委員会)

現状・背景等

社会の変化及び
生徒の
個性化・多様化等

- 国際化，情報化，少子高齢化等教育を取り巻く環境の大きな変化
- 生徒・保護者の学習ニーズ，進路希望等の多様化と学力向上の課題

【対応】

☆各高等学校の特色の明確化
☆柔軟な教育システムの導入
☆新しいタイプの高等学校の設置推進

生徒数の減少等

- 中学校卒業者数の減少と小規模校化の進展
- 中山間地域に立地する学校が多く，全国的にみて小規模校を多く配置
- 都市部の学校が大規模

【対応】

☆全ての高等学校における教育効果を高めるため，学校規模及び 配置の適正化を図る

基本的方向性

既設の学校

★学校規模の適正化
○適正規模
１学年　４～８学級
○３学級以下の学校
交通事情や地域事情等を考慮しつつ，近隣校との統合を検討
○９学級以上の大規模校
中卒者数の減少を考慮し段階的に規模を適正化

★普通科
単位制の導入や，新しいタイプのコース等の設置について検討

★専門学科
○専門高等学校（単科校）
近隣の専門高等学校，専門学科との統合も視野に入れ，原則として拠点校として整備・充実
○普通科と併置した専門学科
複数学科を併置している形態を生かす観点からの学科改編や近隣の専門学科校との統合

★総合学科
一定規模の確保に留意するとともに，地域の文化や特色，生徒の進路希望等に応える教育内容の充実に努める

★定時制課程
○校外における学修の単位認定，聴講生制度，単位制の積極的活用等を推進
○生涯学習の観点も含めて定時制教育の新たな展開を図る観点から統合も含めた適正配置を推進

★通信制課程
○生涯学習機能を持つ開かれた学校として，聴講生制度，単位制の積極的活用，大検合格科目の単位認定等を推進
○マルチメディアの活用を検討

新しいタイプの学校等

★新しいタイプの専門高等学校，専門学科の配置
社会や産業構造の変化，生徒の学習ニーズの多様化及び新学習指導要領に対応した新しいタイプの専門高校，専門学科の配置について検討

★中高一貫教育校の設置
学校制度の複線化，多様化を推進し，生徒の個性を重視した教育の実現，学校選択の幅を拡大する観点から，原則として，既設の県立高等学校の発展的統合・改編により，中高一貫教育校の設置について早急に検討